

令和5年度

令和5年6月29日 名古屋市立南天白中学校

南天白通信

REOプロジェクト
広報版 第1号



6月13日から15日の3日間、3年生は修学旅行に行ってきました。この修学旅行中に先生が3年生に伝えてきたのは、「みんなで行けたから楽しかったという旅行にしてください。」ということでした。さて、その結果は？ 修学旅行後に3年生が書いた「頑張っていた友達への感謝のメッセージ」から見ましょう。

① (Aさんへ) 都内分散で電車を使う時、駅員さんにどこに行けば目的地に着くかを聞いて確かめてくれたり、上野動物園から出るとき、思っていたからっていた出口から出れなかったときに、職員の人に聞いてくれたので助かりました。

② (Bさんへ) いろいろなときに、みんなの安全確認をしていてとても頑張っていました。都内分散のときは、道を調べてくれてとても助かった。Bさんがいなかったら、多分、迷子になっていた。Bさんのおかげで笑顔があふれました。



③ (Cさんへ) 行きの新幹線やバス、都内分散、ペンションで、ほとんどの時間一緒にいて楽しかったです。トイレに行きたいと言ったらすぐに連れて行ってくれてありがとう！

④ (Dさんへ) まず、ずっと一緒にいて、楽しませてくれてありがとう。カヌーでは協力し、息を合わせないとうまうまいけど、お互い合わせるのがうまく、一番うまかったかも。感謝。ディズニーでもずっと笑顔で楽しませてくれてありがとう。都内分散のとき、状況がいろいろ変わっても、すぐ対応してくれて助かったよ。



⑤ （Eさんへ）電車に詳しくて、同じ班にいてとても助かったです。班のメンバーをまとめてくれて、陰悪なムードにならず楽しかったです。

それぞれの読んでいると、感謝の言葉とともに、一人一人が修学旅行で感じた「楽しかった」という思いが伝わってきます。この他に、個人に対してでなく、もう少し大勢の人たちに対するメッセージもあったので、それらを見てみましょう。

⑥ （実行委員さんへ）人生で一度しかない修学旅行のしおりを作ってくれてありがとうございました。浅草からペンションまでの移動の中のバスレク、とてもおもしろかったです。私たちを楽しませてくれてありがとうございました。



⑦ （女子の皆さんへ）バスの中、ペンションのとき、一緒に遊んで、楽しい思い出をたくさんつくって楽しかった！ご飯のときにたくさん話せたのがうれしかった。ありがとう！

修学旅行の最終日の解散式で、先生が3年生の皆に「みんなで行けたから楽しかった！という思いを感じることができましたか？」という質問をしたとき、大勢の人が「ハイ！」と答えてくれました。

当然、3日間の旅行の中では、少々腹の立つことや、いやなこともあったかもしれませんが、でも、3年生の皆さんの書いた文章を見ていると、解散式のあの「ハイ！」という声は、本当の気持ちから出た声だったんだなと思いました。

その上で、皆さんに注目してもらいたいのは、その楽しさを生み出したものは何なのかです。

もう一度、ここに載せた文章を見て下さい。見えてくるのは、友達の「役に立とう」とか、友達を「助けよう」「楽しませよう」などなど、友達のことを考え、思いやろうとする気持ちです。

当たり前のことかもしれませんが、この気持ちの大切さに、もう一度目を向けてみてください。

同じような思いを、1年生や2年生も、校外学習(名古屋港水族館)や学年レク(校内かくれんぼ)で感じることができていたならいいなと思っています。